甲賀市企業人権啓発推進協議会広報

共に生きる

第４号
2006年12月

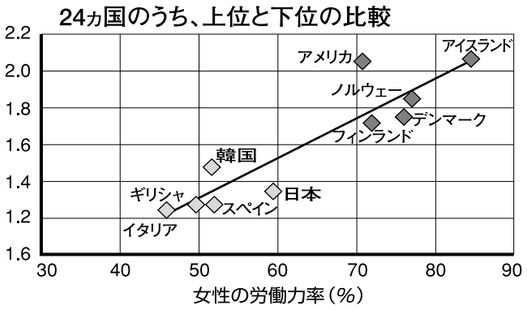
発行・編集
甲賀市企業人権啓発推進協議会
事務局
甲賀市役所産業経済部商工観光課内
TEL 0748-65-0710
http://www.mcv.zaq.ne.jp/koka-kijinkyou/

考えてみよう！ 職場における男女共同参画

ここ近年、日本では急速に少子化がすすみ、同時に女性の社会進出がめざましくなっています。そのため、女性の社会進出に反対する声も耳にします。

しかし世界に目を向けると、日本は出生率の低さもさることながら、女性の労働力率も決して高くはないのです。下のグラフから、現在は女性の労働力率が高い国ほど、出生率も高くなっていることがわかります。

1人あたり国内総生産が1万ドル以上の24ヵ国のうち、上位と下位の比較



諸外国と比較すると低いとはいえ、日本国内では女性の労働力率は上がっているのに、出生率が下がり続けているのはなぜでしょうか。

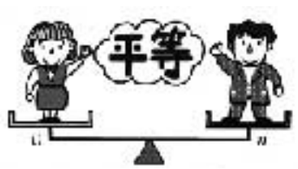
そもそも社会で働く女性が増えているのは、女性自身のためだけではないようです。女性に限らず多様な人材を起用することで、多様な価値観や発想をとり入れられ、経営環境の変化にすばやく柔軟に対応できます。それを企業の成長につなげようとする考え方を“ダイバーシティ”といい、いち早く気づいた企業はすでに業績を伸ばしています。

このダイバーシティによって次々と業績を伸ばす企業があり、男女雇用機会均等法や育児休業法も整備されていますが、実は働く女性の約７割は第１子の出産を機に仕事を辞めています。

これは、女性が家事・育児などの家庭の役割を担うことを当たり前とする風潮が未だに残っている反面、それをほとんど担わない男性と同様に会社で働くのは困難だということが、もっとも大きな理由のようです。

平成４年に男女とも取れるよう法律が施行された育児休業も、男性の取得はおろか、女性が取得することさえ難しい社会環境は、社会で働くことを選んだ女性に、子どもを生むことを断念せざるを得なくさせていることが、日本における少子化の大きな要因と考えられます。

女性の起用が企業の財産となるこれからの時代に、子どもを生んでも働き続けたい女性や育児に関わりたい男性を、家庭や地域、そして企業も様々な形で応援できる社会の実現をめざしましょう。



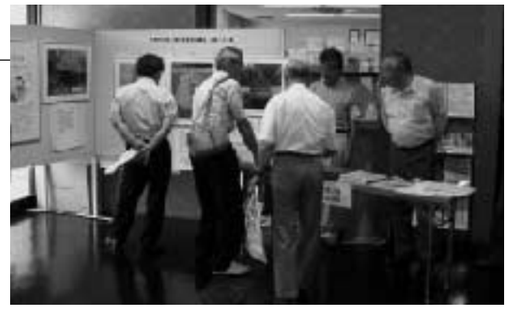
12/4(月)～12/10(日) 人権週間です

12月4日（月）～12月10日（日）は人権週間です。この機会に各企業・事業所の取り組みの点検をしてみましょう。従業員各位も人権について考えて見る機会にしましょう。

18年度 人権標語 募集

企人協では人権週間の取り組みとして人権標語の募集をしています。詳細は各企業・事業所に送付していますので窓口担当者に確認してください。豪華優秀賞（12点）を始め、企人協に応募された各事業所3名の参加者には粗品を進呈します。皆さんのご応募をお待ちしています。

人権パネル展開催する



2006年８月20日（日）あいの土山文化ホールにおいて、第一回甲賀市人権教育研究大会が開催され、信楽西教育集会所と大野保育園の実践発表、趙　博（チョウ・バギ）さんの講演などが行われました。当協議会としても、人権パネル展示と啓発物の配布を行いました。

企人協人権研修に参加して

セキスイボード㈱　桂田

去る９月25日、甲賀市企業人権啓発推進協議会主催の人権研修（水口）に参加し、脇田学講師の講義を受講しました。

服飾メーカー「コム・デ・ギャルソン」が「一部の恵まれた特権階級に似合う服」ではなく、人種や性別にこだわらない、地球上の誰もに似合う服にこだわることで日本の服飾メーカーとして数少ない世界での成功を収めているという冒頭のお話が新鮮で印象に残っています。

彼らのポリシーが世界に受け入れられたわけですが、これは世界がそういったものにこだわらない時代になってきているということでしょう。人種・性別・地域等様々な違いを超越して、みんなが元気になれる、豊かになれる、自分に誇りを持てる、そういう時代を世界が求めているともいえると思います。

部落問題をみればわかるように、日本では同じ民族にも関わらず、仲間内で序列をつけたがるようです。しかし、「時代」はそれらの序列を認めない方向に向いているのではないでしょうか。

我々は、この時代が求めるボーダーレスをしっかり理解し、その視点で目の前にある問題を問い直すことが必要なのかもしれません。

フィールドワーク研修に参加して

㈱タカコ　橋本

快晴のもと、10月25日　企人協フィールドワーク研修が60名の参加者の皆様と参加することができ、大変勉強になりました。

今回は彦根市広野地区とキリンビール㈱滋賀工場での研修でした。

広野の今昔の変遷、立派な町並み造りへの努力、戦死者への哀悼の意、これからの明るく開かれた町創りへの強い意思と団結力を研修のなかで感じました。擂鉢状の地形と水害をのり越え、映像で紹介される町並みは誇らしく感じられました。彦根市の取組みも甲賀市に劣らず歴史の重みを背負った日々の歩みに裏付けられた説得力のあるものでした。

「Ｗａっとねす春日」も立派な建物で広野の象徴として今後更に有効に利用されることでしょう。

キリンビール㈱滋賀工場での各種人権への取組みは、一流企業特に直接消費者に接する大手企業にとっては死活問題となります。そんな企業でもパワハラ、セクハラが完全には消滅しない根深さを再認識されました。

企業にとって人権教育指導体制、実施内容、今後の取組み姿勢は評価出来るレベルであると理解しました。

工場見学後の試飲は、当研修のテーマから緊張感の否めないなか、心和ませる一時であったと思います。

早速、当社社内におきましても人権教育の一環として指導して参りたいと存じます。